

【第10回～第20回 まで】

【第20回定例会】 [(2012(平成24)年4月14日(土))] 発表者：森下 義雄 氏

〔人間主義心理学会での発表結果について〕

テーマ：自己実現を促進させる ―マスロー理論による「教育実践からカウンセリングへの試み」―

〈発表要旨〉

～ はじめに ～

欲求満足の考え方を取り入れた自己実現に向かうカウンセリングを考察する。

～ 要 旨 ～

人はいろいろな経験をするなかで原風景をもつ。特に幼少期のものは影響が大きい。これが媒体となって創造性が働き、エネルギーが湧く。多少の差はあっても基本的欲求を満たしながら自己実現に向かう。しかし、原風景の中のネガティブなものから脱却できない状態に陥ったとき、カウンセリングの言葉によって癒されたり、思考の改変が欲求満足へとつながり、自己実現へと導かれる。原風景でなくても人生の中でのそれぞれの場面においては欲求不満足があり、いろいろな問題や悩みがある。しかし、それを解決するのは自己コントロールであり、バランス感覚でもあるがそうしたことができないクライアントへ欲求満足の視点で、過去、現在、未来のとの時かに焦点を当て、言葉によっての支援でその人の自己実現を促すことができると考える。

～ 話 合 い ～

- ▼ 学会ではどのような反応があったか。
- ▼ 星野先生が大変関心を持たれ、学会後に貴重な著書を贈って下さった。島崎先生からは「欲求満足」といっても単なる満足でなく、適切な場面での提供で得られる満足感でなければならない、との指摘があった。
- ▼ 過去を思い出させ、それから脱却させるようにするのか、過去は問わないという姿勢でいくのか。
- ▼ カウンセリングによって自己強化を促進し、自分なりの工夫や創造性を見出させることが大切だ。
- ▼ ポジティブ心理学では、より積極的によい面を伸ばすことを強調している。
- ▼ 悪い思い出を良い思い出に変えていく。
- ▼ 原風景がよい人もそうでない人も発想の転換を促す、その助けをするのがカウンセリングだ。
- ▼ 思考の改変がポイントだ。
- ▼ どうすればできるか。
- ▼ その時々適切な言葉が大切だ。
- ▼ 「その一言の力」というテーマで、近く研究会を開きたいと考えている。
- ▼ この詩はよく引用されている。
「その一言で励まされ／その一言で夢を持ち／その一言で腹が立ち／その一言でがっかりし／その一言で泣かされる／不思議に大きな力を持つ／ほんの一寸の一言で」
- ▼ 考え方を変えて喜びの多い人生を歩んでもらう、そのためのカウンセリングだ

【第19回定例会】 [(2012(平成24)年3月3日(土))] 発表者：藤原 敬久 氏

テキスト：上田吉一(著)『ご遺稿』 第2章 人間における欲求の段階

〈概要〉

求める欲求が欠乏欲求、与える欲求が成長欲求。欠乏欲求が満たされ人ほど成長欲求が生じやすい。

1. 欠乏欲求に支配されている生き方は

- ★ 欲求や衝動を厄介なものとして否定
- ★ 一応休止状態 ⇒ 焦燥感 ⇒ 元の状態 ⇒ 欲求の消滅 ⇒ マイナスのクライマックス
- ★ 環境に依存し、他人に対してアンビバレンスな傾向が生じやすい。
- ★ 利己主義的な行動が顕著にみられる。
- ★ 自己の利害に関係のない部分は見逃される。愛情欠乏症になり、精神を触む。

2. 成長欲求中心の生き方

- ☆ 欲求や衝動を楽しく喜ばしいものとしてすすんで受け入れようとする。
- ☆ 欲求の階層を上昇する動きが継続するので明確なクライマックス（満足感）がない。
- ☆ 行動を決定するのは外的要因ではなく、内的意志であり、主体的決断である。
- ☆ 他人を一個の独立した人間としてみる。
- ☆ 無我の境地で恍惚感に浸るまで没頭する。
- ☆ ありのままの現実を認知し、淡々としたこだわりのない自在無礙の心境を保つ。
- ☆ 愛他的、教育的で相手を創造し、成長させることができる。

〈話合い〉

★ 欲求という病理的な潜在心理としての扱いが主であったが、成長欲求は今までの心理学があまり扱っていない部分だ。

★ 東北の震災現場に行った。ワカメの養殖は以前なら個人でやっていたが、今では共同作業でみんなと共にといい気持ちでしている。分かち合う気持ちがあった。不幸を体験すると、人は変われるということを感じた。それは阪神淡路の時も同じだ。献身的な人がいたことは事実だ。

★ 東北へは、ピエロの服装で避難所を回った。会った瞬間、多くの人が心を開いてくれた。こんな浮き浮きした気持ちになったことはないとも言ってくれた。うどんひとつ食べるにしてもしんから温かい気持ちになったという。

★ なぜそんなに歓迎されたのだろう。

①意外性（とんちゃんの突然の出現による閉塞感の打破）②つながり（誰かとつながりたいという心理状態にあるところへの出現）③生きる意味づくり（生きていていいのかを考えさせてくれる。自分を大切にしてくれる。）

★ ピエロの服装だけなら効果はない。他のピエロの人もいたが、こわがっていいた。いっしょに温泉に入ったりして、素顔の人間としての交流を大切にしたい。

★ 今回の一人一人の出会いを大切にしたいことがさらに周りの人に及んでいったら有難い。

★ クライマックスという言葉は活動的安定といえるのではないか。

★ それにしても「お金」が人間に与えた影響は大きい。損得で動く人、貯めるだけが生きがいの人等。つる女房の嘆きを思う。

【第18回定例会】 [(2012(平成24)年2月11日(土))] 発表者：森下 義雄 氏

〔自主発表〕 人間主義心理学会 (3/24)発表予定原稿

自己実現の促進 ―マスロー理論を踏まえた「教育とカウンセリング」の実践―

〈キーワード〉

人間の自己実現傾向、健康、欲求満足、原風景、エネルギーの源泉、欲求のバランス、価値への志向、心理療法

〈発表意図〉

マスローの理論の欲求満足の考え方を教育やカウンセリングに取り入れて研究したい。

〈概 要〉

1. 原体験と自己実現傾向

幼い頃、宮大工である祖父から左手で食べたことを厳しく叱責を受けた原体験のある人が障害児教育の教授になっている。5年生の時、担任から自信をもって描いたと思った作品が担任に認められなかったことを原体験に持つ人が成人して手作りの美しい年賀状を送ってくる。幼少期にみられる挫折体験は愛情の欲求の不満足、自尊感情の不満足などが形を変えた行動として現れている。それは自己実現につながるエネルギーと考えられる。逆説的にいえば豊かな社会にあっては苛酷な環境体験といわれるような原体験も必要かもしれない。しかし、こうした体験は持ちにくい児童が多いことも事実である。そこで現在の学校教育やカウンセリングで考えられる適切な体験をいかに与えるかを考え、実践した。

2. 教育現場での実践例

① 体育の試合のあと、勝つ喜びを与えてくれたのは負けた人の存在だ。負けた人に感謝してほしい。負けた人はその悔しさをバネにして強い人のよさを学び、がんばってほしいと指導した。自発的な練習、創造的な活動、ルールのある活動や楽しさを知り、クラスの全チーム優勝につながった。

② 支援教員としての実践

朝から元気がないま学習意欲のない子が1、2名はいる。遅くまでテレビを見て、朝食も食べていないことを聞き出す。生理的欲求の不満足である。担任を通して親を指導してよくなった。

不安であったり、友達からのいじめを受けている子がいた。安全の欲求や所属の欲求の不満足である。そういう子には意図的に励ましの言葉かけをした。認められ尊重の欲求も満足したようである。

このように教師や友達との関係や親子関係の改善から欲求不満足が解消され自己実現的な生き方ができるようになった。

3. カウンセリングでの実践
カウンセラーからの単なる癒しにとどまらず、クライアントから自発的な自己実現の欲求が明確に出るようにする。カウンセラーとクライアントが意識的に自己実現の視点を共有し、欲求満足。精神の健康性に配慮しながら問題に応じた有効な療法を駆使しながらクライアントに関わっていくことが大切である。

—————☆—————☆—————☆—————

マスロー理論をふまえた教育実践やカウンセリングを旨とする森下氏の意欲を大いに評価し、学会で十分成果を収められますよう期待致します。

【第17回定例会】 [(2012(平成24)年1月14日(土))] 発表者： 浜崎 順子 氏
テキスト：上田吉一(著)『ご遺稿』 第1章 マスロー心理学
3. 病気と健康の意味 4. 人間のめざすもの

〈概 要〉

□ 健康とは心身が目標に向かってすべての有機体の部分が統一的に効率よく円滑に最高度に機能すること。恵まれた条件のなかでそれらの機能がどのように働いて、その人に自己実現を可能にしているか、元々健康な人がどうして病気になったのか、その過程や人格の変容を追究すべきである。

□ 神経症といっても、個人のやむにやまれぬ努力のなかから生じてきたといえる。子どもの非行も可能な限り、人間存在の善意を信じこれを擁護する。

□ 真に健康で、成長への意欲を

もつ人は、様々な問題に対して挫折を感じつつも、高い理想をめざして闘う人である。

□ 適応と健康は区別すべきである。墮落した文化に適応して真の幸福、真の豊かな情緒生活、人生に感動をおぼえるような生き方をつかみ損なって、易々と環境に適応する人は決して健康とはいえない。

- 一般的に人間は「よりよい人間」になろうとしている。その芽は外部にあるのではなく、人間自身が生まれつきもっている。親や教師はその芽を認め、育て、励まし、育てることにとどめるべきである。
- マスローは「完全なる人間」の追究に生涯を捧げたが、現実には特定の才能について傑出する人の研究から出発せざるを得なかった。

〈話し合い〉

- ◇ マスローの言葉から、問題行動を起こす子どもは、何かが悪いのではなく、その子のサインだというカウンセラーの言葉を思い出した。
- ◇ 「環境が人間をつくる」、とあるが「環境が人間を育てる」を付け加えてほしい。
- ◇ マスローは現実にはなぜ特定の才能について傑出した人の研究からスタートせざるを得なかったのだろうか。
- ◇ マスローは心理学という学問を追究する科学者であり、実証性を重んじたのではないか。道徳や宗教は理想から出発する。
- ◇ 「ひたむきに生きる」のところで、「人は効率的で統合的な人格体制を築くとともに」とあるが、何となく意味不明。
- ◇ 人間主義心理学会から参加の呼びかけがある。何を研究する学会か。人間性心理学会もあり、研究課題も明らかである。
- ◇ 個人的には「人間らしさ」を研究してほしい、と思う。たとえば、人間には「自己中心の心」「嫉妬する心」など、人間である限り避けがたい心をもっていて、我々は完全に克服できないにせよ、度を過ぎないようにして生きている。だから「人間らしさ」というのである。この自己中心や嫉妬の心理描写は残念ながら、心理学者は一流の小説家とか作家にはるかに及ばないのではないか。しかし、少なくとも人間性心理学を標榜する限り、小説家が考えつかないような心理学用語を駆使して解明したいものだ。
- ◇ 現代文学の大御所・菊地寛はヒューマンインタレストの小説で大人気を博した。

本定例会よりテキストは、故 上田吉一先生の『ご遺稿』を読んでいくことになりました

【第16回定例会】 [(2011(平成23)年12月3日(土))] 発表者：河野 憲一 氏
テキスト：上田吉一(著)『ご遺稿』 第1章 マスロー心理学
1. 人間主義心理学とは 2. 人間の本能

〈概要〉

1. 人間主義心理学は、人間尊重の立場で、人間を見る眼の転換を図り、人間性こそ価値の原点とし、人間を全体として見る。環境を超える人間、主体的に行動する人間を望む。2. 人間の本能は弱く、その本性は善か中立的なもので、聖と醜が共存する。人間の本能は聖を含み、知性・理性を融合する。人間の声は内面の声となる。

〈話し合い〉

- 1. ソシオメトリックテストは研究自体が問題なのではなく、その扱い方や研究目的が問われる。席替えの資料に使ったことがある
- 2. 受験生を厳しく監督することは、「受験の弊害」というより、カンニングするかもしれないという「人間を信じないこと」が弊害である。大学1回生の時、無監督制だった。今はしていないらしいがなぜだろう。
- 3. 価値は外部にあるのではなく、内在する真善美が尊いのではなく、その域に到達しづらい人でも、その人なりの「今」「ここ」での欲求充足と広がりこそが尊いのでは。そうだと思う。
- 4. 職能だけでなく、+アルファを求める場合がある。例えば「親切的」お巡りさん。

5. 環境が人間をつくるときも、人間が環境を超えるときもある。さすが人間主義心理学
6. 「適応」とは「対応行動」Coping behavior であり、その対語は「表現行動」Expressive behavior つまり、「環境に対して創造的に関われる人間」となる。
7. 本能の「育て直し」について、教育や福祉の働きは、すべてこのような本能在社会の荒波のなかで消失してしまうことのないように、これを守り育てるところに意味がある。本能を育て直す教育での失敗例は戸塚ヨットスクールだろう（脳幹教育）。成功例としては温かい家族をつくりたいという山口百恵と三浦友和の結婚だと思う。
8. 「清濁併せ呑む」は世俗的な感じがある。我々が理想とする自己実現的人間は、清濁の二分法を超越した新次元のものではないか。
9. 「下部構造」という言葉が使われているが。「上部構造」とともに社会科学で使われているが、ここでは食欲、性欲、金銭欲などの本能的なものが下部構造、真理の探求、正義感、善悪、芸術鑑賞、宗教心などの意識、主観が上部構造だと思う。
10. 理性と本能的衝撃と健康性の組合せが4通り考えられる。おもしろい。
11. 人間主義心理学の手法として
- 法則定立的よりも個性記述的
 - 客体変様よりも主体変様 がある。
- 学校現場のレポートは個性記述が多いし、教師の自己変革はまさに主体変様である。

【第15回定例会】 [(2011(平成23)年11月19日(土))] 発表者：森 光巧悟 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
あとがき (p.303 - 308)

〈まとめ〉

人間は不完全な存在である。それがゆえに完全なものを求める。かなわぬまでも理想の人間を描くのである。価値が欲求の対象として現れるものとすれば、これまで人は欲求を外に向け、価値あるものを外の世界に見て、嘗々としてこれを取り入れようしてきた。だが、このような搾取と収奪の生き方が物質的豊かさや裏腹に精神的荒廃をもたらす結果となっている。今後われわれは、欲求の対象を外に向けるのではなく自己に向けよう。そして自己の内に価値あるものを見出そう。そして、本来の人間を取り戻すばかりでなく、自発的な行為を通じて、このような価値を実現できる。深層より湧き出る人間の価値こそ、やがて自己を満たし、外界を潤し、精神的に豊かな世界を出現させるのである。

〈話合い〉

1. 理想像を求めるとき、宗教や道徳と結びつくのでは。
宗教は信じることを求め、道徳はあるべき姿を求めるが、心理学は現実に存在する理想的人間の事実から帰納していくと思う。
2. マスロー自身の理想像か。
マスローの伝記を書いたホフマン氏の著作を読むと、かなり自己実現的人間として描かれている。
3. 国民総幸福量（GNH）が話題になってる。情報が少ないのでは。
インターネットでは多くの情報がある。ブータンに行き、泊あてもらった女性学者の緻密な報告もある。てっとり早くいうと、日本は自転車で行くようなもので、常に前を向いて走っていないと倒れてしまう。それに対してブータンは三輪車で遅いが倒れる心配もなく周りも見ながら走れる。ブータン国王の発言で反省することが多い。しかし、先の女性学者の意見では、ブータンが貧しいままでよいとは、決して思っ

ていないし、今後ブータンでもいろいろ問題が起こってくるだろう。一般に人はみんなが貧しいと、不幸に思わないが、一方で物質的に豊かな人がいて自分が貧しいと不幸に思うところがある、と言っている。そういえば、今アメリカの若者が各地で騒いでいるのは格差社会に対する抗議ではないか。阪神大震災で多くの家が壊れたとき、みんなは同じように被害を受け、みんな助け合っていこうと誓い合ったが、しばらくして、復興に格差が生じてくると、人々の結びつきも次第に希薄になってきた。

4. 現状と理想の間に近未来のベストの状態があるのでは。

面白い発想だ。そうかもしれない。

5. 自己の内にある価値あるものとは？

一般に、マスローの理論は国のあり方を論ずるよりも個人に力点がある。「安全」一つとっても国家レベルでは未解決な問題が多い。自己からの価値にこそ豊かさがある。

【第14回定例会】 [(2011(平成23)年9月10日(土))] 発表者： **山野 晃** 氏

テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988

第10章 科学論 第3節 人間主義心理学の課題 (p.271 - 273)

<要 旨>

1. 学習面

感動体験による世界観・人間観の転換、遅く生きる自律的人間の形成が必要

2. 認知面

直感や第六感、無意識的知覚、真善美の感覚、希望・夢・想像・発明発見、意図や私心のない認知、畏敬や感嘆をもたらす認知の研究。共感覚や共感関係の研究。統合意識・B認知・トランスパーソナルな認知、至高経験の認知等の研究

3. 情緒面

幸福・安定・満足・受容などでの情緒性・楽しさ・喜び・ゲームなど恍惚・高揚・陶醉・啓示・オーガズムなどに伴う情緒、これらの底に働くメカニズムの解明、ユートピアや天国をつくり憧れる理由

4. 動機面

子どもへの愛・犠牲、自己の利益に関わりなく正義、平等、自由に命までかける欲求、殉教者・英雄・愛国者・利他的人間の動機、性の問題

5. 知能面

英知・識見、洞察、理解、常識、分別の重視知能を促進させるものの研究

6. 認知と思考面

想像性や生産性、空想や夢、象徴、無意識的思考、生産的想像的思考の研究

7. 臨床心理学

成功した幸福な個人の事例研究、シニシズム・権威主義・無価値感・偏見・憎悪・食欲利己主義の研究、喜ばしい人生体験の治療効果の研究、悲劇的な体験・病気・挫折体験・葛藤など望ましさからくる経験の治療効果の研究、自己実現・健康性の基準や尺度の作成

8. 動物心理学

自己犠牲・恥・罪・愛情・言語・象徴・ユーモア・芸術・科学の能力を無視しないように。高等動物を用いる方がまだ人間心理を研究するうえで得るところは相対的に大きい。

9. 社会心理学

協力・利他・友情・自由・はみだし人間・環境からの解放、排斥・追放の効果の研究、

10. 人格面

精神的健康性の研究。、楽しみや喜びに満ちた親子・異性関係や思春期の青年心理学研究

<山野氏が提起した話題>

1. 「教育」（特に教育心理学）は、今後どういう方向性をもって進むべきか
2. 人間観をどうとらえるか
3. ヒューマニスティック心理学は、なぜマスローが考えた「第3の勢力」としてもっと心理学の中心の立場になり得なかったのか。

さらに次の問題について論議しました。山野氏は討議資料として「ヒューマニスティック心理学にみる人間の本質」についての西川隆蔵氏らの諸説を紹介しました。特に人間はいかに死ぬかという選択をできる可能性をもった存在であるとの死生観は、いかに生きるか選択でできることであるとの論に関心が寄せられました。

また、『人間性心理学と実存主義』の書から「ヒューマニスティック心理学の変遷」について紹介しました。そのなかでヒューマニスティック心理学がさらに発展したとみられるトランスパーソナル心理学はオカルティズムに近接する面があるのでアメリカ心理学会では正式な部門として認められていない。ただ意味や価値を探求するヒューマニスティック心理学の精神は臨床心理学やカウンセリングの分野に根強く息づいているとの説明がありました。

山野氏は「ホリスティック教育」に関心を寄せ、ホリスティック協会による「ホリスティック教育の理念」について紹介しました。

〈概 略〉

序文 教師も親もお互いの批判をやめ、ともに手をたずさえ、創造的な活動を展開しよう。

1. ホリスティックな見方・考え方

人間は地球生態系の、地球生態系は宇宙の一部であり、宇宙のなかのすべてのもの、地球生態系のなかのすべてのものは、つながっている。ホリスティック教育は伝統的な教育を否定するものではなく、それらを包み込み全体的な調和をつくりだそうとする。ホリスティックな教育理念の共感にとどまらず、自分の潜在意識という心の深みに目を向ける。

2. 生命への畏敬

宇宙の創造原理としてのはたらきを「いのち」と呼ぶ。一人ひとりの「いのち」の神秘に目覚め、畏敬を実感して安らぎを感じる。私たちはこの世界に、自己に対して、他人に対して、そして、地球に対して、贈り物をするために生まれてきた。

3. 違いと出会い、違いを生かす違いがあることことが豊かさであり、新しい気づきがある。個性とは相互補完的關係における多様性をいい、自立とは孤立でも依存でもなく、完全な人間像を求める必要はない。

4. ホリスティックな人間観

人間の存在そのものに価値があると認め、個人の根源的な尊厳に基づく。

5. 学ぶことは変わる事

学ぶとは自分と世界のかかわりが深まること、つながりが深まること。直感的・イメージ的・美的芸術的な右脳も活かす全脳的学習をめざす。

6. ホリスティックなリーダー

学校のみならず家庭も職場も自然もすべて学びの場で、人生で出会うすべての人が教師であり、リーダーである。

7. 真の自由

真に自由な人とはつながりのなかへ開かれた人、

8. 社会適応から共同創造1

9. 地球市民としての自覚

10. 母なる地球一略一

(8-9. については紙面の都合上内容を略させていただきます。)

〈要 旨〉

いかなる研究が手薄か、焦眉の急を要する研究は何か、といった問題を認識することが大切であるにも拘らず、手段中心の研究が支配的である。手段中心の心理学では、

1. 研究手続きが強調され、テーマについてあまり論議されない。
2. 統計処理の専門家を重視する。
3. 何でも数理化し数値それ自体が独走する。問題中心の心理学ではでは数量も扱うがあくまで問題解決への補助手段に過ぎないのだ。
4. 問題解決に手段を合わせるのではなく、行おうとする手段にふさわしい問題を選ぶ傾向がある。
5. 科学の階層を作る傾向が強い。
6. 科学を区分し、それぞれに分かれた領域の間に壁を設ける傾向が強い。
7. 問題中心に考えれば正当派も異端も存在しないが、手段中心では正当派ができる。
8. 科学の領域を次第に狭めていく傾向が強い。
9. 大胆で冒険的な研究といった特質が失われ安全第1の慎重な研究態度になる。
10. 次第に価値基準があいまいになる。

〈所 感〉

1. 大学院で統計学を学んだが、学ぶ意味が忘れられそうだった。
2. 先行研究は必要だと思った。
3. 数量化はやはり補助的手段と思う。
4. 文科省の体力テストで練習してからテストする学校がある。意味がない。自発的に運動遊びに向かわせるには、防衛体力をつけるには、といった問題が大切なのに。

〈討 議〉

- ★ 価値基準があいまいになるとはどういうことか。
- ★ おそらく大した研究でもないのに、方法がきっちりしているからという理由で高く評価される場合だろう。
- ★ 「独創的」という言葉が使われているが、独断と偏見に陥りやすいのでは。
- ★ 「オリジナリティ」という意味だ。よく論文に「追試」と証して、先行研究と同様の研究をして、同じ結果になりました、ということ通っていることがある。これも大切なことだが、独創性という点からいうと評価されないのでは。
- ★ 大学院の入学式で副学長が次のような挨拶をしたことを覚えている。「あなた方はこれから研究生生活に入るが、あなたが問題とするテーマについて今までどのような研究がされているかを調べてほしい。(先行研究) 研究の山には、高い山、低い山様々だが、たとえ低くても、まだだれもが登ったことのない山(未登峰)に挑んでほしい。その山が未登峰かどうかはプロである教官が知っているはず。よく教官と相談して、低くてもよい、まだ誰も登ったことのない未登峰に挑戦してほしい。」
- ★ 院でも学部でもテーマを見つけるまでが苦労だ。やっとの思いでテーマを見つけても論文に仕上げるまで時間が限られている。つい論文集を見る。うまい方法で仕上げられているのを見ると、どうしても模倣してしまう。人間主義心理学の教授に指導を受けながら、結局統計心理で卒業論文を出した思い出がある。人間主義心理学で勉強のし直しだ。

【第13回定例会】－1 [(2011(平成23)年7月2日(土))] 発表者：中川 昌信 氏

〈要 旨〉

人間主義心理学は、自然の営みに対する素朴な感動、生命の神秘性に対する敬虔な尊重、人間の細やかな感情に対する経験な尊重、人間の細やかな感情に対する受容と承認を含んだ心理学でなければならない。

[人間のために使われるための配慮事項]

1. 心理学者の心理は健全であるべき

研究態度	研究結果
もし、自分の人格内に不安をもち、安全第一なら	大胆さに欠け、先行研究や既成の知識的枠組みから逸脱しないものに
人格が統合され、よく自己を受入れ健康なら	未知なるもの、あいまいなものにも興味や関心を示す
機械的、物質的な客観的法則のみ追求するなら	抽象的な論理展開のみに過ぎなくなる

2. 戦争の手段として、大量殺戮に加担する

科学や強制収容所でも人間を選別するための心理学はないほうがよい。

3. 還元主義、非聖化、心理主義を排する。

価値ある精神的存在、敢えて没価値的な心理学であろうとして切り捨てようとするところに虚構が生まれる。

〈討 論〉

- ◆ ここはマスローがまさに第三の心理学としての人間主義心理学の価値を論じたところだ。我々もまたこの見方に賛同している。
- ◆ ただ、心理学では統計の手法が多くとられ、客観的で説得あるものとして学会の研究論文にも採用されている。これなくしては、単なる青年の主張に過ぎず、誰も信用しない。◆しかし、例えば「因子分析」の手法も、どのような因子が潜在しているかを探索する有力な手法だが、途中の精密な数学的処理前後にはかなり主観がはいっている点が問題だ。◆心理統計についても、その限界を承知しながら過信することなく、また不信感をもつことなく巧く使っていくことが大切ではないか。
- ◆ 希望、夢、憧れ、生き甲斐、人生、目的への意志……これまで科学として顧みられなかった人間の価値を追求する学問に共感したい。

〈要 旨〉

「マクレガーのX理論とY理論」

X理論は、いわばアメとムチで人々にやる気を起こさせようとする理論である。当人には欲求が存在しなくとも、管理者が企業の立場からこれに賞や罰を加えることにより、企業のめざす方向に行動を動機づけてゆこうとする理論。

Y理論は、普通の人は誰でも好きな仕事を持っている。したがって進んで引き受けるものである。管理者は、個人の求める仕事を充分理解し、その仕事を企業目的に生かしていくことにより、企業は個人のやる気を十分に引き出すことができるという考え方である。低次欲求が満たされている豊かな社会の従業員にとって、給料や労働条件の改善のみで満足するものではない。報酬の最も重要なものは、自我の欲求や自己実現の満足であり、それらを満足することがやる気を引き起こす重要な条件である。

〈討 議〉

- ◇ Y理論が万能でないことが指摘され始めたので、マクレガーはZ理論の開発を始めたが志半ばで倒れてしまったらしい。
- ◇ 認識をすることと、実際それを踏まえて行動することとは大きな隔たりがある。企業の繁栄が、「自己の目標の『最高』の条件とするなら、例にある現場管理者は企業の繁栄の全体像の認識が充分理解できなかったと考えられるのではないだろうか。
- ◇ 企業の目標と自己の目標を一致させるのは困難だろう。様々な考え方があり、企業の繁栄がどこでえられるか。売上げか企業拡大かそれぞれに分かれるところであり、そこに自己の思いが重なるとより複雑になる。
- ◇ Z理論はX理論とY理論の中間だろうか。
- ◇ マスロー著、上田吉一訳の『人間性の最高価値』のなかのZ理論に関する部分を紹介しよう。

マスローは、マクレガーの理論を引用して「単に健康な自己実現者に関しては、総括的にマクレガーのY理論にあてはまるといってもよいが、自己実現を超越した人々に関してはX理論、Y理論と同一の連続線上にあるが、Z理論と呼ぶ新しい次元に生きているといってもよいであろう」と述べ、彼のいわゆる完全なる人間性は、単なる人格の健康性を超えて、超越的体験に生きる人間でなければならないことを強調している。(P479)

【第11回定例会】 [(2011(平成23)年4月23日(土))] 発表者：河野 憲一 氏

テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988

第9章 経営論 (p.268 - 271)

★ 河野氏からの話題 ★

① 君子は義にさとる、小人は利にさとる」と論語にある。君子は物事を処理するとき、まずそれが正義にかなっているかどうかを考えるが、小人(徳のない、教養がない人)は、それが利益になるかどうかばかり考える。「損をして、徳をとる。」利益に関しては損かもしれないが、人徳を重視する。高度資本主義社会は様々なコミュニティを破壊し続けることによって発展してきた。例えば会社での社縁が薄らいだのは、非正規労働者が増え、能力主義による賃金格差や転職者の急増が原因だと考えられる。

「縁・つながり」を破壊することが、果たしてこの社会の目標であったのか。誰もが利益になるかどうかばかり考える小人の世界になっていないか。もはや今や資本主義の逆行はないが、君子的な企業経営のあり方は求められよう。

東日本大震災での東北人の我慢強さ、道徳性の高さ、秩序正しさ、思いやり、国内外からの多くの支援の輪、または年末のタイガーマスク現象などから、その根底では「我欲」ばかりではなく、人間的な「絆」を求めていることが分かる。

君子的な企業経営、君子的で温かい社会を構築するために、マズロー心理学が理論と共に具体的な方策が提示できるとよい。

② 適材適所とは、会社が職を用意するのではなく、各人が職の中で自分をいかに活かし、自分に合うようにもっていくか、である。このとき 100 % 合うことを求めるのではなく、自分に合った職を創造することが重要だ。

③ 「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される」（夏目漱石『草枕』）とあるように、世の中は理性だけで渡ろうとすると他人との間に摩擦が生じやすい。人情を重んじれば、どこまでも感情に引きずられてしまう。このため、いかに感情（気持ち）を汲み取りながら、理性的な解決を提示していくかが問われよう。自分の気持ちが受容されたと思えば、一応の落ち着きを取り戻せ、今度は相手を受け入れようとするゆとりが生じるからだ。だから、まず相手への共感的理解が大事となる。

（注）河野氏からは、その他いくつかの大切な提起がありましたが、紙面の都合で割愛させていただきます。